
自転車と男。

鳴子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自転車と男。

【Nコード】

N6255Q

【作者名】

鳴子

【あらすじ】

「自転車が、喋った」

男：浪人生。田舎の実家から引っ越して、都会の予備校に近い叔父の家を借りている。一人暮らし。高校の時もチャリ通学だった。

自転車：喋る。地面は走れるが、空は飛べない。シティバイクなので砂利道は意外とつらい。

ミスって【1】を短編にしてみました。
暇だったらどうぞ。

自転車と男。【2】（前書き）

連載にしなきゃいけなかったのか。
バラバラでさーせん。

自転車と男。【2】

男「ただいまーっと」

自「今日はえらく遅かったな」

男「ちょっと気合い入れて勉強してきた」

自「人間は大変だな」

男「代わってくれてもいいんだぞ」

自「嫌だね。毎日をしんどいしんどいと思いながら過ごすのは趣味じゃない」

男「ホントに面倒だよ…」

自「まあ大学に入ればそんなことにもならないんだろう?」

男「それだけが救いだな」

自「大学入ってもしんどいかもしれないって思いもあるんだな。まあ言わないでいいか」

男「ああ、そういえばさ…」

~~~~~

自「…高校の時の自転車?」

男「ああ。お前の先代。チェーンのとこのカバーフレームが付いてる以外は全部同じヤツなんだよ」

自「たしか引つ越してきた時に実家に置いたまま、だったか」

男「まだ乗れそうだったから、帰省したときに使えるよう親父に定期メンテナンスを頼んどいたんだけどな」

自「放置されたままだな。お前がこつちに来てからずっと」

男「ちよつと電話する」

~~~~~

男「完全に忘れてやがった…」

自「無責任な親父だな」

男「きつつーく言つといたから大丈夫だろ」

自（パソコンの中に入ってるのを母さんに見られたくないだろ、か。親父…絵に描いたような駄目っぷりだな…）

男「お前が居てくれて助かったよ。ありがとな」

自「助けたのはお前で、助かったのは妹だ。こちらが礼を言わないとな」

男「お前兄妹いるのかよ！」

自「そこをツッコむのか」

男「他にあるか？」

自「たぶんお前は非現実を受け入れ過ぎててツッコみどころがおかしいのだらうな…」

男「普通だと思うぞ」

自（そんな普通がいてたまるか）

自転車と男。【2】（後書き）

読んでくれてありがとう。

自転車と男。【3】（前書き）

グダグダラダラ回。

ストーリーの展開のさせ方を誰か教えて…。

ちょっと試行錯誤してます。変なところは気軽に指摘いただけると幸いです。

自転車と男。【3】

男「おはよー」

自「知ってるか？別に起こさなくても自転車は動くんだぞ？」

男「知りませんでした」

ドサッ

自「カゴが曲がる。静かにおけ」

男「…なんか嫌なことでもあった？」

自「朝っぱらから起こされた」

男「すみませんでした…」

~~~~~

男「しかしアレだな」

自「…」

男（まだ怒ってるのか…）

自「眠いんだよ！」

男「すみませんでした」

くくくくくくくくくく

ガチャン

男「んじゃ行きますか」

自「カギを忘れるな馬鹿野郎」

男「余りにも口が悪いんじゃないでs y」

自「ああん？」

男「すんませんでした」

カチツ

男「行つてきます…」

自「おう」

男（帰ってくるまでに機嫌を直してくれてるといいんだが…）

くくくくくくくくくく

男「ただいまー」

自「いい報せがある」

男「ん、なんぞ？」

自「妹から話が来てな。今日、知らないおっちゃんに治してもらったと言っていた」

男「おお！良かったな！」

自「お礼を伝えてくれ、だと。ありがとうとな」

男「いや、知らなかったとはいえ、今まで放置してしまっただけが悪かった…」

自「伝えておこう」

男「頼む」

自「結果オーライ！だそうだ」

男「はええな、おい」

ガチャン

タツタツ シャー…

男（それにしてもおっちゃんって誰だ…？）

自「知らないのか？」

男「全く」

自「お前の母親の友達で、地主らしいぞ」

男「地主とはまたすごい人が来たんだな…」

自「たまたま来てたそうだな」

男「なるほどね。母さんの友達は、よくわかん。元ヤンだからかで、数が多いらしいが…」

自（…嫌な思い出を見てしまった…この母親、相当恐ろしいな…）

男「ま、治ってホントに良かったよ」

自「あ、ああ。そうだな」

男「ん？どした？」

自「な、何でもない」

男「？」

自（包丁は…投げるものじゃないハズだ…）

自転車と男。【3】（後書き）

読んでくれてありがとう。

うん、難しい。

とりあえずがんばる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6255q/>

---

自転車と男。

2011年2月7日07時55分発行